

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

【上位目標】カトマンズの住民が主体となってバグマティ川の汚染を食い止めることにより、生活環境が改善する。

【その達成度】

1. 分散型排水処理施設（DEWATS）の建設

本事業では、3ヵ年事業の3年目として、デシェ村（第1年次事業）、バスネット村（第2年次事業）に引き続き、バグマティ川の中上流に位置する Gokarneshwor Municipality（日本の市にあたる）ナイドールにて、分散型排水処理施設（Decentralized Waste Water Treatment System: DEWATS）を設置した。

2. 研修の実施を通じた、地域住民による環境保全活動の促進

DEWATS 建設と並行して、ナイドールの住民約 140 人に対し研修を行った。フィールドや座学の研修を通じて、施設を維持・管理し、環境保全に向けた行動を起こすのは住民自身であることを地域住民が理解した。また、住民自らが DEWATS の維持・管理を行うための互助組織の設立が検討され、今後は彼らが主体となって生活環境改善のための DEWATS の利用・維持・管理がおこなわれる。

事業対象地域では、特に台所から排出される生活排水が村内に垂れ流しとなり、また、ゴミが路上に大量に捨てられていることで、川だけでなく村の環境汚染も懸念されていた。本事業を経て、まずは家庭内でのゴミ分別が推進されるようになった。

さらに、バスネット村住民らとの協働によるゴミの分別回収といった、地域横断的な活動も見られるようになった。生活環境改善の兆しが住民の具体的な行動変容にみられる。

3. 地域住民による、生活環境改善のための実践的知識の伝播

第2年次事業で実施した指導員養成研修（TOT）を修了した指導員のうち4人が、ナイドールでのモデル研修を実施した。自分たちの経験も織り交ぜながら研修を進めていくことで、研修内容がより参加者にとって身近なものとなった。また、他の TOT 参加者も近隣住民への研修を実施するなど、住民主体の環境保護と生活改善のための行動が広がり始めている。

上記1～3より、上位目標「カトマンズの住民が主体となってバグマティ川の汚染を食い止めることにより、生活環境が改善」を将来にわたって継続していくことのできるハード、ソフト両面での基盤づくりが達成された。

(2) 事業内容

1. 地域単位で生活排水を処理できる施設（DEWATS）の建設

対象地域に居住する 142 戸（1,040 人）からの家庭排水を処理する能力のある分散型排水処理施設（DEWATS）を建設した。

建設と並行して、継続的な維持管理のために利用世帯数を住民らが正確に把握する目的で、世帯調査や詳細な住宅地図作成を住民自らが実施した。建設作業に関しても、工事の行程及び予算を住民が理解しやすい体裁で作成し、本建設予算とその細かい内訳を住民と共有するとともに、住民が工事の一部作業を担った。これらは、自分たちの DEWATS 建設であるという意識の醸成にも繋がった。

2. 川の汚染の原因が日々の生活習慣にあることに住民が気づき、解決のために行動を起こすことを促すための研修の実施

DEWATS 建設と並行して、対象地域住民約 140 人に対し、施設を維持・管理し、環境保全に向けた行動を起こすのは住民自身であることの理解を促す研修をおこなった。4 人の指導員（下記 4. を参照）がその一部を担い、ファシリテーターと協力しながら研修を進めた。各回のテーマは以下のとおりである。

- ・ 汚染のメカニズム、水質検査の方法（バグマティ川の視察研修）
2016 年 11 月 25 日、12 月 24 日

- ・ 汚染のメカニズム 2017 年 4 月 21 日

- ・ 日常的なゴミ処理の方法 2017 年 4 月 22 日

- ・ 施設の保全方法①（DEWATS の仕組み） 2017 年 4 月 24 日

- ・ 施設の保全方法②（DEWATS の仕組み） 2017 年 5 月 1 日

- ・ 施設の保全方法③（メンテナンス） 2017 年 5 月 27 日

（※各研修の内容は「添付資料：研修の記録」に記載）

3. DEWATS を住民たちが維持・管理できる仕組みづくりの支援

対象地域住民たちが施設の管理・運営には互助組合が有効、且つ必要であるとの認識にたつたため、そのために必要なサポートをおこなった。事業開始当初から、住民たちは DEWATS の維持・管理を目的とした互助組合設立を検討しており、準備委員会の理事メンバーが中心となって事業を進めてきた。DEWATS の建設と地域住民に対する研修を経たタイミングで、改めて互助組合設立に関する研修を設立準備メンバーにむけて実施した。

具体的には、活動開始までに必要な手続きと行動計画の確認、施設の定期点検や水質のモニタリング、それに伴うコストを担う体制を作るための定款づくりをサポートする研修を実施した。

（※研修の内容は「添付資料：研修の記録」に記載）

4. 他地域に活動を普及していくための人材育成（指導員の養成）

第 2 年次事業にて指導員養成研修を修了した 18 人のうち、特に他地域に環境保全活動を普及することに関心をもつ 4 人が、ナイドール住民への研修の一部を担う（上記 2.）、モデル研修を実施した。

(3) 達成された成果

期待された成果

分散型排水処理施設の利用により、対象地域を流れるバグマティ川の汚染を食い止め、生活用水として安全に利用できるレベルの水質が維持される

成果を測る指標と達成度

【指標】対象中流域の水質が、下記「対象中流域における指標レベル」にて示す値で推移することで、生活用水として安全に利用できるレベルの水質が担保される。

【達成度】

汚染の進行を食い止める能力のある DEWATS が建設された。水質については、2017 年 5 月の建設終了直後であることから、検査に十分な水量を確保できていないため、今後、専門家の協力も得ながら検査を行い、また住民による簡易検査も行っていく予定である。

期待された成果

地域住民が生活環境を改善するための行動を起こす

成果を測る指標と達成度

【指標 1】対象地域のほぼ全世帯（約 250 世帯）が互助組合に加入する

【達成度】

対象地域住民によって、DEWATS メンテナンスを目的とした互助組合設立のための準備が進められてきた。また、準備委員会理事メンバーに対して、当会および現地提携団体から、世帯調査、互助組合の活動がスタートするまでの行動計画や定款の内容に関する研修を実施した。引き続き、現地提携団体と協力しながら、地域全体で施設のメンテナンスに取り組むための行動計画や規則を制定するためのサポートをおこなっていく。

【指標 2】対象地域においてプラスチックごみの分別回収がなされるようになる。

【達成度】

対象地域において、家庭内でのゴミ分別や買い物バッグの持参等が、主に村の女性たちによって推進されるようになった。また、バスネット村住民らとの協働によるゴミの分別回収といった、地域横断的な活動も見られるようになった。

	<table><tr><td>期待された成果</td></tr><tr><td>地域単位での排水処理の必要性和その方法について、他地域に普及することのできる指導員が養成される。</td></tr><tr><td>成果を測る指標と達成度</td></tr><tr><td>【指標 1】指導員養成研修の過程を終了した 20 人の指導員がナイドールの住民に対するモデル研修を実施し、達成度と課題を共有する。 【達成度】 第 2 年次事業の指導員養成研修の課程を修了した指導員のうち、4 人の指導員が事業内容 2. の研修の一部を担い、(モデル研修の実施)、ファシリテーターと協力しながら研修を進めた。 指導員養成研修においては、参加者が一方的に講義を聞かされるのではなく、「当事者の経験や知識を引き出し、プロジェクトの文脈に置き換えて理解していく」「たとえば図解、デモンストレーションを利用する」「参加者が自分で考え、答えを見出す」研修手法を学んだ。研修のモニタリングの結果、概ね上記手法を活用して進められたと言える。また、その他指導員についても、自主的に近隣住民への研修をおこなうなど、プロジェクト外でも他地域への普及が行われている。</td></tr></table>	期待された成果	地域単位での排水処理の必要性和その方法について、他地域に普及することのできる指導員が養成される。	成果を測る指標と達成度	【指標 1】指導員養成研修の過程を終了した 20 人の指導員がナイドールの住民に対するモデル研修を実施し、達成度と課題を共有する。 【達成度】 第 2 年次事業の指導員養成研修の課程を修了した指導員のうち、4 人の指導員が事業内容 2. の研修の一部を担い、(モデル研修の実施)、ファシリテーターと協力しながら研修を進めた。 指導員養成研修においては、参加者が一方的に講義を聞かされるのではなく、「当事者の経験や知識を引き出し、プロジェクトの文脈に置き換えて理解していく」「たとえば図解、デモンストレーションを利用する」「参加者が自分で考え、答えを見出す」研修手法を学んだ。研修のモニタリングの結果、概ね上記手法を活用して進められたと言える。また、その他指導員についても、自主的に近隣住民への研修をおこなうなど、プロジェクト外でも他地域への普及が行われている。
期待された成果					
地域単位での排水処理の必要性和その方法について、他地域に普及することのできる指導員が養成される。					
成果を測る指標と達成度					
【指標 1】指導員養成研修の過程を終了した 20 人の指導員がナイドールの住民に対するモデル研修を実施し、達成度と課題を共有する。 【達成度】 第 2 年次事業の指導員養成研修の課程を修了した指導員のうち、4 人の指導員が事業内容 2. の研修の一部を担い、(モデル研修の実施)、ファシリテーターと協力しながら研修を進めた。 指導員養成研修においては、参加者が一方的に講義を聞かされるのではなく、「当事者の経験や知識を引き出し、プロジェクトの文脈に置き換えて理解していく」「たとえば図解、デモンストレーションを利用する」「参加者が自分で考え、答えを見出す」研修手法を学んだ。研修のモニタリングの結果、概ね上記手法を活用して進められたと言える。また、その他指導員についても、自主的に近隣住民への研修をおこなうなど、プロジェクト外でも他地域への普及が行われている。					
(4) 持続発展性	1. 事業地における DEWATS の持続発展性 ナイドールの住民による互助組合の設立によって、地域住民自身によって DEWATS を維持・管理していく環境が整えられた。一方で、川の汚染の原因が自分たちの生活習慣にあることに気づき、分散型排水処理施設が自分たちのものであるという意識も醸成されてきているが、各年次の事業終了後すぐに住民が自分たちのみで施設の維持・管理に必要なことを実践するのは難しい。 施設管理や互助組合運営の技術的支援については、現地提携団体 (SOMNEED Nepal) および DEWATS 建設の専門家によって随時情報共有 (必要に応じて研修等の実施も含む) がおこなわれる。 2. 活動を他地域へ普及させる持続発展性 第 2 年次事業で実施した指導員研修を修了した指導員らが中心となって、他地域で、特にゴミの分別回収といった環境保全活動を広げていくことが期待できる。指導員の一部は地域のゴミ・排水の問題について、自分たちの住む村だけではなく、広域で取り組むことにも意欲を示している。必要に応じて現地提携団体によるコンサルティングをおこなうことになる。 また、本年度は、第 1 年次から第 3 年次事業の対象住民同士での情報交換やアドバイス、合同でのゴミ分別活動といった事例が見られるようになった。今後は地域横断的な環境保全活動に展開していくことが期待できる。事業終了後も、現地提携団体が定期的なモニタリングをおこない、当会と情報共有しながら、必要なサポートをおこなっていく予定である。				